

普段、家のお掃除^{そうじ}はどなたがしていますか？「家事全般は、家庭にいるものの役目」といって誰かに任せっきりせず、家族みんなで行いたいものですね。

書店には掃除に関する本がたくさん並び、その中で「片付けはまず捨てること」と、必要のないものは“捨てる”ということが今の流行^{はやり}のようです。

しかし、捨てることが「勿^{もったい}体ない」と思うことも大切です。リサイクルやリユースということも視野に入れて考えなければ、環境破壊^{おおもと}の大本になるのではないでしょう。

年末の大掃除は、普段できないところを掃除するもので、曹洞宗大本山永平寺をはじめ、大本山總持寺や全国各地の修行道場などでも、竹を束にした長い煤^{たば}払い用の竹はたきで隅^{すみすみ}々まではたきをかけ、掃除を行います。

煤^{すすは}払いは古来より“煤^{ぜっく}掃き節供”といい、一部の地域を除いて十二月十三日に行うところが多いようです。テレビなどで、お寺の本堂やご本^{ほんぞん}尊^{すすはら}さまなどの煤^{ぎょうじ}払いの行事の映像が流れるのもこの頃です。

掃除といえば、亡くなった師^{ししょう}匠^{じょう}から教わったことがあります。障^{しょうじ}子^{ふすま}や襖^{さん}、アルミサッシの棧^{さん}や溝^{みぞ}などは、雑^{ぞうきん}巾^{きん}で拭くとどうしても隅の汚れが残ることがあります。そういう時には、使わなくなった筆を掃除道具として、しっかりと汚れを落としなさい。また、机^ふを拭くときは、見えている表面だけでなく、机の裏までも気^{くば}を配りきれいにしなさい、などなど・・・。

古びて書道には使えなくなった筆を掃除道具として再利用するということや、目に見える表面だけでなく、机の裏まで掃除をしておけば、もし机の裏面を触っても汚れがつくことがなく、お互いが気持ち良く過ごすことができる。これが、掃除をするということなのだ、と教えられました。

年末の大掃除、家族一人ひとりが役割を分担し、みんなで協力しあってきれいにし、みんなが気持ち良く新年を迎えられるようにしましょう。